老親子間の交流に関連する要因

── 都市の夫婦のみ世帯の場合 ──

古谷野 亘，西村 昌記，水嶋 陽子，矢部 拓也

第 49 回日本老年社会科学会大会一般報告，2007.6.

【目的】老親と別居子との交流に関連する要因の析出を目的とした。

【方法】調査は、2003 年 3 月に、東京都小平市に居住する夫婦のみ世帯の高齢者夫婦 400 組（夫の年齢が 70～79 歳）を対象として、訪問面接法により実施された。調査対象者の選定は住民基本台帳からの無作為二段抽出によった。夫婦ともに回答を得た有効回収数は 270 組、回収率は 67.5%であった。調査対象者には、すべての別居子について、その一人一人との交流の態様および基本属性をたずねた。この手続きにより、248 組の夫婦と 499 人の別居子（娘 238 人、息子 261 人）との交流に関する情報を得た。分析対象となった夫婦の年齢は、夫が 70～79 歳、平均 74.0 歳、妻が 61～82 歳、平均 70.4 歳であった。

本研究においては最初に、老親と子どもとのダイアドを単位として、老親子間の交流の態様を表す 9 個の指標（表 1 参照）について因子分析を行い、因子得点を算出した。次いで、夫婦と子どものトライアドを単位として、因子得点にみられる夫婦の差を検討した。さらに、因子得点を従属変数とする分析を行って、老親子間の交流に関連する要因の析出を試みた。独立変数には両親の年齢と学歴、生活機能などの老親側の要因と、子どもの性、年齢、配偶者の有無、老親の家からの距離などの子ども側の要因を同時にとりあげた。

【結果】因子分析の結果、相互に関連する 3 つの因子が抽出された。指標の因子所属から、第Ⅰ因子は「サポート」、第Ⅱ因子は「同伴行動」、第Ⅲ因子は「プレゼント」の因子と解釈された（表 1）。

いずれの因子の因子得点も、夫より妻で有意に高かった。夫と妻の因子得点の間にはかなり強い正の相関関係が認められた（表 2）。すべての因子について、娘は息子より老親との間に密接な交流を有していた。子どもの老親の家からの距離は夫の「プレゼント」を除くすべての因子得点に負の影響を及ぼしていた。妻の生活機能は自分と夫の「サポート」と「プレゼント」に正の影響を及ぼし、夫の生活機能は自分の「同伴行動」と「プレゼント」にのみ有意な影響を及ぼしていた。

【考察】老親と別居子との交流には複数の次元が存在し、次元ごとに異なる程度で、状況的要因の影響を受けている。状況的要因の中でも特に妻の生活機能は、夫と別居子との交流にも影響を及ぼす重要な要因であると考えられる。

表 1　因子分析の結果（斜交回転後の因子負荷量）

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
相談事を聞いてあげた	.703	-.290	.237
相談事を聞いてもらった	.756	.022	-.050
用事をしてあげた	.687	.153	-.015
用事をしてもらった	.683	.269	-.087
一緒におしゃべりをする	.104	.754	-.003
一緒に買い物などをする	.152	.676	.011
一緒にいてほっとする	-.104	.696	.167
プレゼントをあげた	.018	-.022	.850
プレゼントをもらった	-.003	.190	.741

表 2　夫婦の因子得点間の相関　（*r*）

因子	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
夫 ⟷ 妻	.486	.554	.634

老親子間の交流に関連する要因

ー 都市の夫婦のみ世帯の高齢者 ー

古谷野 亘，西村 昌記，水嶋 陽子，矢部 拓也

【目的】

老親と別居子との交流に関連する要因について検討することを目的とした。

【方法】

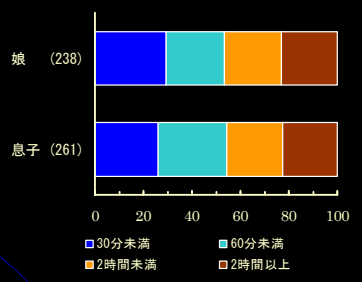
調査は、2003年3月に、東京都小平市に居住する夫婦のみ世帯の高齢者夫婦400組（夫の年齢が70～79歳）を対象として、訪問面接法により実施された。調査対象者の選定は住民基本台帳からの無作為二段抽出によった。

夫婦ともに回答を得た有効回収数は270組、回収率は67.5%であった。

【分析対象者の属性】

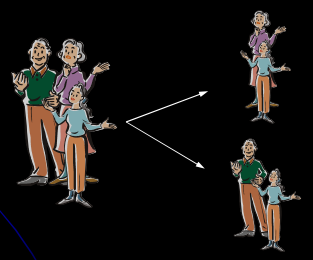
	妻	夫
年齢	61～82 70.4±3.7	70～79 74.0±2.7
学歴 （標準就学年数）	6～17 11.3±2.3	6～19 13.2±3.5
生活機能 （老研式活動能力指標）	1～13 11.9±1.8	3～13 11.1±2.2
n	248	248

子どもの家までの距離

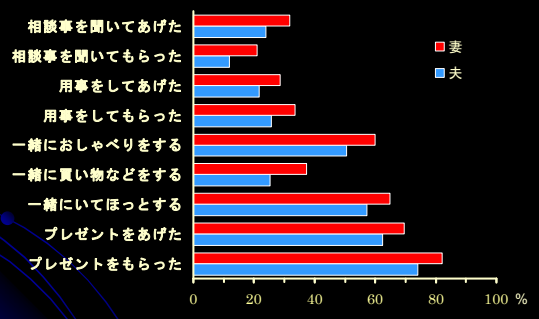


【分析】

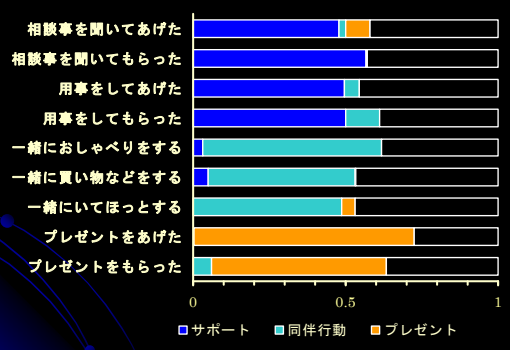
最初に老親と子どもとのダイアドを分析単位として、老親子間の交流について因子分析を行った。



別居子との交流の頻度



因子分析の結果（斜交回転後の分散比）

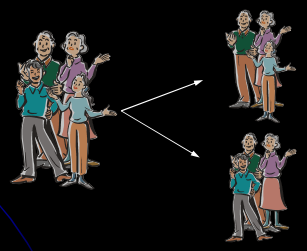


因子間の相関（*r*）

	サポート	同伴行動	プレゼント
サポート			
同伴行動	.243		
プレゼント	.200	.169	

【分析】

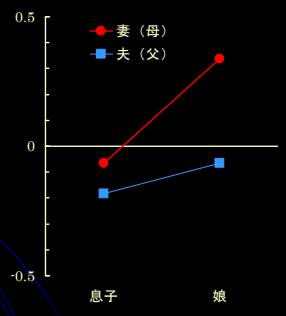
次いで夫婦と子どものトライアドを分析の単位とし、499組のトライアドについて、因子得点を従属変数とする分析を行った。



妻と夫の因子得点間の相関（*r*）

サポート	同伴行動	プレゼント
.486	.554	.634

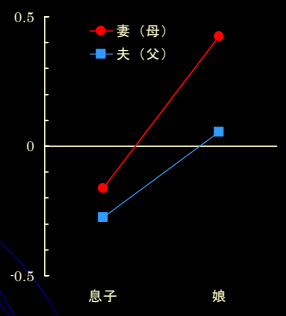
因子得点の平均値
サポート



分散分析の結果

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	**

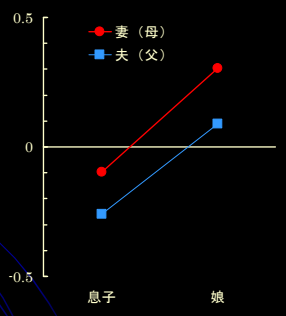
因子得点の平均値
同伴行動



分散分析の結果

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	**

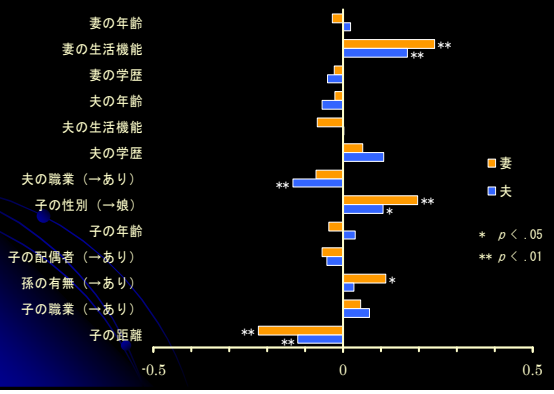
因子得点の平均値
プレゼント



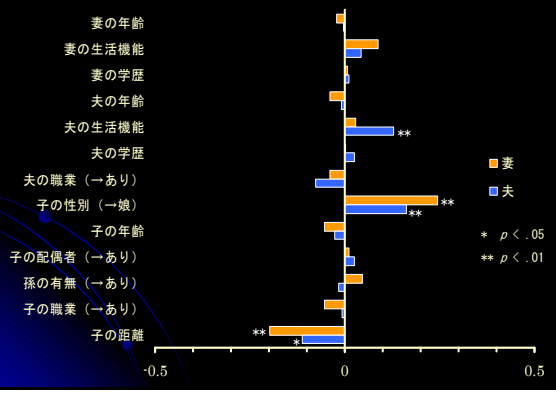
分散分析の結果

夫婦の差	**
娘と息子の差	**
交互作用	ns

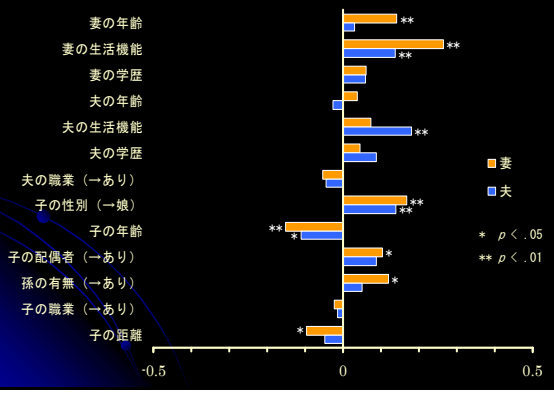
因子得点「サポート」の重回帰分析の結果（β）



因子得点「同伴行動」の重回帰分析の結果（β）



因子得点「プレゼント」の重回帰分析の結果（β）



重回帰分析の結果の要約

	サポート		同伴行動		プレゼント	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫
妻の年齢					++	
妻の生活機能	++	++			++	++
夫の生活機能				++		++
夫の学歴		+				
夫の職業　（→あり）		−−				
子の性別　（→娘）	++	+	++	++	++	++
子の年齢					−−	−
子の配偶者（→あり）					+	
孫の有無　（→あり）	+				+	
子の親の家までの距離	−−	−−	−−	−	−	

+ − p < .05,　++ −− p < .01

重回帰分析の結果の要約

	サポート		同伴行動		プレゼント	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫
妻の年齢					++	
妻の生活機能	++	++			++	++
夫の生活機能				++		++
夫の学歴		+				
夫の職業　（→あり）		−−				
子の性別　（→娘）	++	+	++	++	++	++
子の年齢					−−	−
子の配偶者（→あり）					+	
孫の有無　（→あり）	+				+	
子の親の家までの距離	−−	−−	−−	−	−	

+ − p < .05,　++ −− p < .01

重回帰分析の結果の要約

	サポート		同伴行動		プレゼント	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫
妻の年齢					++	
妻の生活機能	++	++			++	++
夫の生活機能				++		++
夫の学歴		+				
夫の職業　（→あり）		−−				
子の性別　（→娘）	++	+	++	++	++	++
子の年齢					−−	−
子の配偶者（→あり）					+	
孫の有無　（→あり）	+				+	
子の親の家までの距離	−−	−−	−−	−	−	

+ − $p < .05$,　++ −− $p < .01$

重回帰分析の結果の要約

	サポート		同伴行動		プレゼント	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫
妻の年齢					++	
妻の生活機能	++	++			++	++
夫の生活機能				++		++
夫の学歴		+				
夫の職業　（→あり）		−−				
子の性別　（→娘）	++	+	++	++	++	++
子の年齢					−−	−
子の配偶者（→あり）					+	
孫の有無　（→あり）	+				+	
子の親の家までの距離	−−	−−	−−	−	−	

+ − $p < .05$,　++ −− $p < .01$

重回帰分析の結果の要約

	サポート		同伴行動		プレゼント	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫
妻の年齢					++	
妻の生活機能	++	++			++	++
夫の生活機能				++		++
夫の学歴		+				
夫の職業　（→あり）		−−				
子の性別　（→娘）	++	+	++	++	++	++
子の年齢					−−	−
子の配偶者（→あり）					+	
孫の有無　（→あり）	+				+	
子の親の家までの距離	−−	−−	−−	−	−	

+ − $p < .05$,　++ −− $p < .01$

重回帰分析の結果の要約

	サポート		同伴行動		プレゼント	
	妻	夫	妻	夫	妻	夫
妻の年齢					++	
妻の生活機能	++	++			++	++
夫の生活機能				++		++
夫の学歴		+				
夫の職業　（→あり）		−−				
子の性別　（→娘）	++	+	++	++	++	++
子の年齢					−−	−
子の配偶者（→あり）					+	
孫の有無　（→あり）	+				+	
子の親の家までの距離	−−	−−	−−	−	−	

+ − $p < .05$,　++ −− $p < .01$

【結果の要約と考察】

- 老親と別居子との交流には、相互に関連する３つの次元 ――「サポート」「同伴行動」「プレゼント」―― がある。
- 妻（母）と夫（父）の別居子との交流の程度には相関があるが、夫より妻の方が別居子との間に密接な交流を維持している。
- 老親と別居子との交流の程度には、老親の側の条件と子ども側の条件がそれぞれ影響を及ぼしている。

- 息子と比べて娘は、すべての次元で老親との間に密接な交流を維持しており、親の家までの距離は特にサポートの授受と同伴行動に負の影響を及ぼしている。
- 夫（父）の生活機能は、夫自身の別居子との交流に影響を及ぼすのみであるが、妻（母）の生活機能は、夫と別居子との交流にも影響を及ぼしている。これは、妻が子ども（特に娘）との間の情緒的な結びつきの強さをもって kin-keeping の機能を果たしていることの反映であると考えられる。

ご静聴ありがとうございました

W. Koyano

老親子間の交流に関連する要因

ー 都市の夫婦のみ世帯の高齢者 ー

古谷野 亘，西村 昌記，水嶋 陽子，矢部 拓也